

テモラウ構文の分析

—母語話者による逸脱の観点から

安藤節子

◆要旨

本稿は、日本語母語話者の産出するV-テモラウ/イタダク構文（以下、テモラウ構文）に見られる格助詞の逸脱について、使用実態の傾向を分析することを目的とする。非母語話者にとって、テモラウ構文を適格・適切に運用することは容易ではない。が、母語話者によるテモラウ構文にも「(私の)横には林さんが来ていただいています」のような、通常ニ格が予想される与益者にガ格が付与される逸脱が日常の口頭表現に頻出している。この現象はどのような場合に生じるのか、コーパスおよびTV放送の用例を、使用頻度と意味機能の観点から定量的に分析する。

◆キーワード

与益者ガ格、即興性、与益者への配慮、受身用法、受益者非表示

◆ABSTRACT

In this paper we analyzed violations with the case particle in sentences produced by native speakers in the *V-te morau/itadaku* constructions (eq. *temorau* construction), and indicated the cause of such violations. It is rather difficult for JSL students to produce a *temorau* sentence accurately and appropriately. Japanese speakers also frequently produce a *temorau* sentence violating the case particle rule (e.g. (*Watashi no*) *yoko niwa Hayashi-san ga kite itadaitemasu.*), rather than the correct particle *ni*. We analyzed in what situations this phenomenon occurred from the following two points: 1) frequency of the violation, and 2) functions of the violation.

◆KEY WORDS

"benefactor *ga*", spontaneity of utterance, consideration of benefactor, passive usage, unmentioned beneficiary

Analysis of the *V-temorau* Construction
in Japanese
From the viewpoint of sentence violations produced
by Japanese speakers
SETSUKO ANDO

1 はじめに

日本語の授受動詞が補助動詞化した構文（以下、恩恵構文）にはテヤル構文、テモラウ構文、テクレル構文と3つの形式がある。語用論的には遠心方向がテヤル構文のみであるのに対し、求心方向はテモラウ構文とテクレル構文がある。

日本語学習者によるテモラウ構文には、上級学習者（中国語母語話者）のリアクション・ペーパーでも「先生は～について整理していただいて」のような視点の問題や、「～について新しいことを教えて、勉強になりました」のような非用等、他の恩恵構文に比べて適格・適切な運用が容易でない様子が観察される。

母語話者の恩恵構文にも日常の口頭表現でこの構文の逸脱^[註1]が頻繁に見られる。例えば（1）～（4）のように、ニ格が予想される与益者にガ格が用いられる現象（以下、与益者ガ格）である。（以下、例文中の下線は稿者による。）

- (1) これまで携わってきた人がしっかり対応にあたってもらうことが重要だと思う。
（茂木敏充経産大臣／原発問題 2013.9.29. NHK「日曜討論」）
- (2) 皇太子さまたちがが気にかけていただいているんだなあと思うとありがたいです。
（釜石住民／皇太子ご夫妻訪問で 2013.11.2. NHK「ニュース7」）
- (3) 大和田伸也さんが「はなまるマーケット」の「おめざ」でご紹介していただいたものです。
（販売員／福井県物産展 2014.1.25. 京王百貨店）
- (4) 漁に出ないと生活できないんで、国がなんとか処置してもらえないと困ります。
（富津市漁師／重油流出で 2014.3.24. TBS「朝ズバッ！」）

本稿はコーパスとTV放送に出現したテモラウ構文について、逸脱文と適格文を定量的に比較、分析して、ガ格逸脱の文が産出される状況・条件を探る。

2 先行研究

2.1 日本語のテモラウ構文

テモラウ構文については、対照言語学あるいは学習／教育の観点から様々な論述がなされてきた。例えば、奥津・徐（1982: 103-104）は「「～てくれる」「～てやる」のような利益給与表現であれば、中国語には“給”があり、その他英語などにもいわゆる受益者格の表現があるが、利益取得表現というのはあまり見当たらない」と述べ、井上（2011: 39）は「日本語の「Vてもらう」に相当する表現が韓国語、中国語にない」としている。またAlphonso（1982: 471）は「英語母語話者にはテモラウはテクレルほど気持ちにぴったりこないので、テクレルをより頻繁に使う傾向がある」（稿者訳および要約）と記述している。

テクレル構文は与益者がガ格に立つのに対して、テモラウ構文は受益者がガ格に立ってその視点から事象を述べる。学習／教育においては、求心方向の2つの恩恵構文の使い分け、とりわけテモラウ構文の運用が課題となる。

2.2 与益者ガ格の逸脱

テモラウ構文の与益者ガ格に関する先行研究には宮地（1956）と金澤（2007）が挙げられる。前者はガ格の逸脱を広く論述する中で、後者は授受表現の動向を論述する中で、ともにテクレル構文との関連でこの現象を取りあげている。

宮地（1956）と金澤（2007）は与益者ガ格の逸脱要因を考察し、逸脱の産出状況には言及していない。本稿は、TV放送の自然発話^[註2]およびコーパスから逸脱の産出状況・条件の傾向を分析する。

3 逸脱文の産出傾向

本節では、母語話者によるテモラウ構文に与益者ガ格が産出される状況を、適格文と比較しながら定量的に分析する。調査の概要は以下の通りである。

【調査対象データ】

この逸脱は口頭表現に頻出するため①②を選び、口語に近い表現が用いられるデータとして③を選択した。

- ① TV放送の自然発話（台詞や表現の固定が見られないもの。以下、TV）
2013年12月末～2014年2月22日に放映された約20余時間分
- ② BCCWJ1.1.0中納言「国会議事録」（以下、議事録）
- ③ BCCWJ1.1.0中納言「Yahoo！ブログ」（以下、ブログ）

【データ処理の手順】

1. テモラウ構文（テモラウ/テイタダク）の抽出、サセテモラウ構文の除外
2. 与益者の格表示が顕在する文の抽出
3. 適格文（ニ/カラ/デ/ニオカレマシテ（ハ））と逸脱文（ガ）に分類

3.1 逸脱文の産出率

3.1.1 データの種類と逸脱文の産出率

表1は上記3種のデータの、逸脱文および適格文の産出率を示している。

表1 データの種類と逸脱文・適格文の産出率

	逸脱文（構成比）		計
	逸脱文（構成比）	適格文（構成比）	
TV	16件 (37.2%)	27件 (62.8%)	43件 (100%)
議事録	28件 (19.0%)	119件 (81.0%)	147件 (100%)
ブログ	22件 (2.8%)	760件 (97.2%)	782件 (100%)

構成比は小数第2位以下四捨五入（以下の表も同様）

逸脱文の比率は高い順に「TV (37.2%) > 議事録 (19.0%) > ブログ (2.8%)」で、ブログの逸脱文の比率 (2.8%) は想定以上に低い結果であった。

表1の意味を考える。データとしての特徴を見るとおおよそ次のように言えよう（TVは総合的に判断）。

- ・文体（表現がくだけているか否か）：ブログ > TV > 議事録
- ・場面（私的か公的^[注3]か）：ブログ > TV > 議事録

- ・表現形態（口頭表現か記述表現か）：TV・議事録は口頭、ブログは記述

逸脱はくだけた文体かつ私的場面で産出されることが予想され、口頭表現では確かにTVの逸脱比率が議事録を上回る。しかし、ブログの逸脱比率が議事録の1/6以下、TVの1/13以下という結果から、文体や場面より表現形態の関与が強いことが明らかになった。

口頭表現では音声は瞬時に消失し、モニタリングや修正が行われにくい。表1はその反映と考えられる。つまり、逸脱には「即興性」の関与があると解釈できよう。

またこの結果は、言語データとしてのブログの特質を示すことにもなった。即ち、ブログは口語に近いくだけた表現が多用されるが、モニタリングで修正が行われやすい点で記述言語の特質が保持されているということである。

3.1.2 テイタダク/テモラウと逸脱文の産出率

表2はテイタダクとテモラウの、逸脱文・適格文での産出率を示している。

表2 逸脱文・適格文におけるテイタダク/テモラウの産出率

	逸脱文			適格文		
	テイタダク（構成比）	テモラウ	小計	テイタダク（構成比）	テモラウ	小計
TV	11件 (68.8%)	5件	16件	12件 (44.4%)	15件	27件
議事録	27件 (96.4%)	1件	28件	90件 (75.6%)	29件	119件
ブログ	15件 (68.2%)	7件	22件	147件 (19.3%)	613件	760件

逸脱文および適格文におけるテイタダクの比率をデータごとに確認する。TVは「逸脱文で68.8% > 適格文で44.4%」、議事録は「逸脱文で96.4% > 適格文で75.6%」、ブログは「逸脱文で68.2% > 適格文で19.3%」と、いずれのデータも逸脱文におけるテイタダクの比率が適格文のそれより高い。議事録で全般にテイタダクが多いのは場面の公式性によるものと言えよう。

表2の意味を考える。テイタダクは、テモラウと比べると、受益者（産出者およびそのグループ（以下、産出者））が与益者に持つ距離感が大きく、その分敬意が働く。逸脱文にテイタダクが多いということは、逸脱文の産出には受益者（産

出者)の与益者に対する敬意即ち配慮があり、表2はそれを反映していると考えられる。逸脱には「与益者への配慮」の関与があると解釈できよう。

3.2 逸脱文と意味機能

ここでは、逸脱文の傾向を意味機能の点から分析する。益岡(2013:31,224)を参考に、テモラウ構文のデータを①誘発用法と②受身用法に分類した。

①誘発用法：受益者(産出者)が与益者に動作の実行を促す。

(5) ~救急車に来てもらいました。(吉行和子 2014.1.17.「徹子の部屋」)

(6) いずれ国民の皆さんに、やっぱり議論してもらおうと思います。

(森嘉朗が集団的自衛権に関して 2014.1.18.「週刊ニュース新書」)

②受身用法：受益者(産出者)が与益者に動作の実行を促さない。

(7) (前略) かーちゃんは入居して間もないのに皆さんに声をかけてもらってなんだか嬉しいです。(ブログ 2008 No.1104)

分類の判断基準は次のようである。

①誘発用法：a.文脈的に誘発の意味や意図がある(例文(5))

b.使役に変換して事実関係が変化しない

c.共起関係：「必要がある」「徹底して」「～ため」「ぜひ」「～なければならない」「意向形」「可能形＋ように」等(例文(6))

②受身用法：a.文脈的に誘発の意味がない(例文(7))

b.共起関係：「思いがけず」「図らずも」「突然」等

①②のいずれとも判断しがたいものは、③不明とした。

表3は意味機能別のデータ件数と、逸脱文・適格文内の構成比(%)を示している。

先ずデータの特殊性を見ておく。議事録の誘発比率が全般に高いのは、産出者(議員)が自らの働きかけや成果を示す発言が多いからであると考えられる(例「～要するに国に考えていただきたいのは～」他)。それを踏まえて分析する。

表3 意味機能別のデータ件数とその構成比

	逸脱文			適格文			計
	誘発	受身	不明	誘発	受身	不明	
TV	4 (25.0)	5 (31.3)	7 (43.8)	13 (48.1)	6 (22.2)	8 (29.6)	43
議事録	14 (50.0)	9 (32.1)	5 (17.9)	113 (95.0)	2 (1.7)	4 (3.4)	147
ブログ	4 (18.1)	12 (54.4)	6 (27.3)	439 (57.8)	74 (9.7)	247 (32.5)	782

誘発用法(部分)はどのデータも適格文の方で比率が高い。受身用法(部分)は逸脱文の方で比率が高く、TVは適格文の約1.5倍、ブログは6倍近く、議事録は20倍近くである。表3から、逸脱には「事態への受益者の受身的関わり」が関与すると言えよう。

3.3 受益者の非表示

テモラウ構文は産出時に受益者が表示されないのが大半である。今回の調査でも受益者が表示された用例は少なく、適格文では906件中20余件^[注4](2.2%強)、逸脱文では66件中1件(約1.5%)であった。ともに数は少ないものの、逸脱文と適格文の用例では質的な違いが認められた。逸脱文で唯一の例文(8)は与益者(部分)が無情名詞であるため恩恵行為の相手とならず、テモラウ構文として例外的なケースである。一方、適格文の用例は例文(7)をはじめいずれも与益者が相手となっている。

(8) ハンバーガーショップ、子供たちは喜ぶでしょうが私は、もっと他のものができてもらいたい？(ブログ 2008 No.746)

テモラウ構文の逸脱文では受益者が表示されにくいことが観察された。与益者ガ格の逸脱には「受益者非表示」が関与すると言えよう。

4 まとめと課題

本稿では、母語話者のテモラウ構文における与益者ガ格の逸脱文の産出状況について、適格文と比較しながら定量的分析を中心に考察した。その結果、次のことが確認された。

テモラウ構文における与益者ガ格の逸脱は、「受益者非表示 (3.3)」の表層構造を取り、「即興性 (3.1.1)」「与益者への配慮 (3.1.2)」「事態への受益者の受身的関わり (3.2)」が関与する状況で産出される傾向がある。

与益者ガ格のテモラウ構文が産出されるプロセスについては今回探ることができなかった。今後の課題としたい。

〈桜美林大学〉

注

[注1] …… 逸脱は、一定の規範からのずれの意味で使用し、それを必ずしも不適格とは捉えない立場をとる。

[注2] …… TV放送の自然発話とは、街頭インタビュー、原稿のない記者会見や対談等。

[注3] …… 公的には「改まっているか否か」も含まれるものとする。

[注1] …… 20余件には、例文 (7) の他に次のような用例が見られる。「わたしは～オタク文化に助けてもらって～。」(中川翔子 2014.1.17.「徹子の部屋」)、「私は皆さんに食べていただこうと芋煮汁を作りました。」(ブログ 2008 No.178)、「僕は光君のお母さんにお友だちをご紹介します。」「(滝沢秀明 2014.2.3.「鶴瓶の家族に乾杯」)。

参考文献

井上優 (2011) 「日本語・韓国語・中国語の「動詞+授受動詞」」『日本語学』30(11), pp.38-48.

奥津敬一郎・徐昌華 (1982) 「「～てもらう」とそれに対する中国語表現」『日本語教育』46, pp.92-104.

金澤裕之 (2007) 「「～てください」と「～ていただく」について」『日本語の研究』3(2), pp.47-53.

益岡隆志 (2013) 『構文意味論』くろしお出版

宮地敦子 (1956) 「誤用—「ガ」を中心として」『國語國文』25(1), pp.45-64.

Alphonso, A. (1982) *Japanese Language Patterns*, vol.1. Tokyo: Sophia University.

資料

現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ) 中納言 1.1.0 「国会議事録」

現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ) 中納言 1.1.0 「Yahoo! ブログ」

TV放送20余時間 (2013.12.28. ~ 2014.2.22.): 「徹子の部屋」「さんまのまんま」「週刊ニュース新書」「おしゃれイズム」「ほんまでっかTV」「鶴瓶の家族に乾杯」等のトーク番組、および「NHKニュース7」等のニュース報道

